



実践! グッドコーチング

暴力・パワハラのないスポーツ指導を目指して

[制作協力] スポーツ庁 / 日本スポーツ協会 [法律監修] 日本スポーツ法学会 [執筆協力] 星野邦夫 [編者] PHP研究所
A5判・並製・64ページ / 価格660円(本体600円+税) 今回で案内の書籍は書店等での一般販売はいたしておりません。

パワハラのないグッドコーチングを目指して。 スポーツ現場で起こりうるパワハラ事例から 指導者のあるべき姿を学べる決定版!

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、スポーツ界におけるハラスメントを防止し、健全な活動を進めることが求められています。

本ガイドブックでは、スポーツ指導者を対象とし、暴力・パワハラを起こさないために指導者として身につけるべき基本となる考え方や、様々なパワハラ事案への対応について、わかりやすく解説しています。

本書の内容

第1部 基本編

- ① スポーツ指導者に求められる役割
- ② パワーハラスメントとは?
- ③ パワーハラスメントを起こさないために

第2部 ケーススタディー編

- ① 愛のムチとしてビンタをくらわした
- ② 制限を設けずグラウンドを走らせ熱中症になった
- ③ ルールを破った部員に丸刈りを命じた
- ④ マッサージと称して部員の身体を触った
- ⑤ 先輩指導者の体罰をコーチとして見て見ぬふりをした
- ⑥ ミスの連帯責任として全員に正座させた
- ⑦ 「負けたのはおまえのせいだ!」とキャプテンを罵倒した
- ⑧ 親がチームに協力的でないからと試合に出さない
- ⑨ 試合中にプレイヤーに対して汚い言葉で怒鳴る
- ⑩ 「どんなことをしてでも勝て!」とプレッシャーをかけた
- ⑪ 自分の方針に異を唱えた部員を仲間はずれにした
- ⑫ 学校にパワハラを訴えた保護者をうそつき呼ばわりした
- ⑬ 私的な用事を部員に言いつけた
- ⑭ 根拠のない高負荷な練習でプレイヤーにケガをさせた
- ⑮ 必要以上に体重を落とすように要求した
- ⑯ プレーヤーの移籍を指導者が妨害した
- ⑰ スキルがあるのに試合に出場させない
- ⑱ 試合で結果が出ないため、恋人と別れろと迫った
- ⑲ 入手した個人情報を知り合いに教えた
- ⑳ プレーヤーの私的な写真をSNSに投稿した
- ㉑ 障がいがあるプレイヤーに自分で用具を運ぶよう指示した

CASE 1 愛のムチとして ビンタをくらわした



ベテランの指導者であるAさんは、チームの練習を見ていてイラストしていました。大会に向けて少しレベルの高いトレーニング課題を課したのですが、クリアできないプレイヤーが何人もいたからです。

「おまえらこんなの、どこか投げやりな感じでした。」「おまえら、何やってるんだ、おまえら練習せよ。」「こんなことでもできないようじゃ、怒鳴りつづ、端から平手でビンタをくらわせま。」「下を向いて涙をこぼすプレイヤーもいます。」「そればあくまでも「愛のムチ」であり、自分とプレイヤーは信頼関係ができていたと信じていました。」「ま、練習を上げてきたという自負もありました。」「実際、プレイヤーたちはピリッと引き締まり、前向きに練習が見え、やはり「愛のムチ」のおかげだと満足

「愛のムチ」はもう通用しない

パワハラチェック表	評価
① 暴行・虐待・脅迫・名譽毀損など刑法に触れるような言動をしていませんか	○
② 人格否定や体罰など人間としての尊厳を侵害する言動をしていませんか	(○)
③ 地位や立場など人間関係の優位性が背景にありますか	(○)
④ 指導や教育の適正な範囲を超えていますか	(○)
⑤ 複数回または執拗ではありませんか	(×)
⑥ 相手に身体的・精神的苦痛を与えていますか	(○)
⑦ 周りのプレイヤーが憂鬱するなど、活動環境を悪化させていませんか	(○)
合計	0/9 (0%)

日本では、本ケースのような「愛のムチ」と称してのビンタ(平手打ち)などの暴力・暴言に伴うスポーツ指導を容認する風潮が根強くあります。しかし、スポーツの社会的・教育的影響力の大きさを考えたならば、暴力の容認は絶対的であってはならないことです。社会で認められない暴力が、社会の一部であるスポーツでも許されるはずがありません。

ビンタに限らず、殴る、蹴る、胸ぐらをつかむ、小突くなど、人の身体に対して有形力を行使した場合には、プレイヤーがケガをしていなくても、刑法の定める暴行罪が成立します。ケガをしていなければ傷害罪などが成立することも考えられます。これまで「愛のムチ」でチームを強くしてきた経験がそうさせるのでしようが、暴力はあくまでも暴力であり、本ケースはパワハラチェック表で見ても、①の「刑法に触れるような言動」で一発レッドカードとも思えるレベルに該当します。

暴力行為は、スポーツの価値を著しく毀滅するものです。チームを本当に強くしたいのであれば、チームやプレイヤー個人に明確な目標・課題を設定し、できないときには言葉での説明や手本を示す、さらには理解を助けるためのツールを活用するなどして、どこが足りないか、どうすればよいのかを本人に気づかせ、動まていくなどしていきましょう。